

第25回中四国サミット議事録

日 時：平成27年9月4日（金） 13：30～15：06

場 所：山口グランドホテル 「鳳凰」

○司会（上野山口県総合企画部長）

それでは、ただ今から、第25回中四国サミットを開催いたします。開会に当たりまして、開催県であります山口県の村岡知事が御挨拶を申し上げます。

○村岡山口県知事

皆さん、こんにちは。山口県知事の村岡でございます。本日は、第25回中四国サミットに各県の知事、副知事さん、そしてまた、中経連の山下会長さん、四経連の千葉会長さん、御多用のところ、遠路山口までお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

山口県は、今、大河ドラマ「花燃ゆ」が放映されていますし、観光客が増えているところでもあります。その「花燃ゆ」の舞台でもあります松下村塾は、今年の5月に「明治日本の産業革命遺産」ということで、萩の5つの資産を含む、山口を越えて九州の23の資産が世界遺産に登録されたということでありまして、この会議を萩の方でできればと思っておったところでもありますけれども、大変忙しい皆さんですので、新幹線のすぐそばでないということになりまして、こちらで開催ということになりました。入口のところに山口の幕末の歴史、明治の歴史の展示をしておりますので、またお時間があればこちらもぜひご覧いただきたいと思っております。

実は平成30年は明治維新150年という大きな節目の年になります。これに向けまして、山口県も観光のキャンペーン「山口幕末 ISHIN 祭」というのをやろうとしております。また、先日は薩長土肥連合ということで、そういうテーマを持ったキャンペーンを4県で連携してやっていこうということをはじめたところでもありますけれども、そういった幕末から明治にかけて大きな転換というのが150年前にあったわけでございます。

そして今、地方創生ということで、大変地方が危機にある中で、地方の人口減少・人口流出の問題を解決して、東京一極集中の是正をして、地域の活力を高めて、そういった取組を国全体で力強く進めていこうという動きがあるわけでございます。我々はチャンスをしっかりとかかしながらそれぞれの地域の創生、再生に向けた取組を進めていかなければいけないと思っておりますけれども、これから各県の方でも、それぞれ地方創生の戦略を作となっておりますが、国の方でもこれをさらに具体的にその流れを地方に振り向けていく、あるいは、そのための財源を確保する、そういったことをしっかりとやっていただかなければいけないと思っております。

そういった意味で、本日の意見交換、地方創生を一つのテーマとして、各県の知事

さん、そして経済界の皆様方と有意義な意見交換ができればと思っておりますし、また、地域の課題としては、高速交通やネットワークの確保など、様々な課題があります。同じような課題を抱えるこの中四国の地域がしっかりと連携をして、いろんな意見を交わしながら同じ方向に向かって取り組んでいく、そしてまた、必要に応じて国に対しても連携して働きかけをしていくことが重要であると思っておりますので、どうか、今日は限られた時間ではありますけれども有意義な意見交換ができるように念願いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。今日はよろしく申し上げます。

○司会（上野山口県総合企画部長）

本日御出席の皆様方につきましては、大変恐縮ですけれども、お手元の出席者名簿により、御紹介に代えさせていただきますと思います。

また、テーブルに2つ紙包装したものを用意しておりますけれども、これは、山口にお越しになられた記念としての「萩焼の小皿」でございます。ぜひともお持ち帰りいただければと存じます。

また、後程、先日出荷が始まりました本県特産の今が旬の「秋芳梨」をお配りいたしますので、どうぞ御賞味いただければと思います。

それでは、議長の選出についてであります。当サミットの議長は、慣例によりまして開催県の知事が務めることとなっております。山口県の村岡知事が会議の進行を務めることといたしたいと存じますが、いかがでございませうでしょうか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございます。それでは、村岡知事、よろしく申し上げます。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。最初に、本日の予定でございますが、本日は、午後3時頃までにこのサミットの議事を終えまして、その後、共同記者会見を行いまして、3時半に終了とさせていただきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初の意見交換は、「地方創生から日本創成に向けた取組について」でございます。こちらについては、共同アピールを行わせていただければと考えております。

まず、お手元の共同アピール案、資料1を御覧いただければと思ひます。この文案は本県で作成してありますので、まず私から、その趣旨について説明させていただきます。

地方創生につきましては、それぞれの地域において、産官学金労言が連携をして、

地方版総合戦略の策定や課題解決に向けた新たな取組が始まるなど、日本創成へとつながる力強い流れが生まれようとしております。

しかしながら、この地方創生が真に実効あるものとなるためには、我々地方だけが頑張るのではなく、国においても、全国共通の課題や構造的課題の解決に向けまして、自らがなすべき施策に、強力に取り組んでもらうことが必要不可欠であります。

特に、これから年末にかけては、国において、来年度の当初予算の編成、総合戦略の改定、あるいは、地方に移転する政府機関の決定など、今後の地方創生の方向性が決まっていく重要な時期を迎えることとなります。

そこで、中四国地方9県の行政と経済界のトップが集うこの機会に、今一度、地方創生に向けた我々の決意を確認するとともに、国に対する要請をとりまとめてはどうかと考えまして、このアピール文案を用意させていただきました。

時間の関係もございますので、個別の内容につきましては、お手元の資料で御確認いただければと思います。

次に、資料2として、新型交付金について、別にアピール文案を用意させていただいております。

新型交付金でありますけれども、今週月曜日に提出された平成28年度当初予算の概算要求に盛り込まれたところがございます。また、公共事業関係費にも対象が拡大されるなど、地方からの要望に応え、一定の前進がみられたところです。しかしながら、我々が求めておりますような自由度の高い制度設計となるのかどうかといった点、予算の規模などについて課題が残っていると思います。そこで、地方創生の深化に向けて、より良い形での制度設計や規模の一層の拡大を国に求めていくことが、今、特に必要と考え、特出しの形でアピール文案を用意させていただきました。こちらにつきましても、個別の内容は、お手元の資料で御確認いただければと思います。

私からの趣旨説明は以上でございます。このテーマにつきまして、御意見をいただきたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、千葉会長さんよろしく申し上げます。

○千葉四国経済連合会会長

今年の6月から四経連会長を務めております、千葉でございます。よろしくお願いたします。私から、資料1「地方創生から日本創成に向けた取組について」、これに関連して、少子化対策について一言申し上げたいと思います。

四国では、昨年9月に知事や経済団体のトップなどをメンバーといたします四国少子化対策会議を立ち上げました。そして、若年人口の流出減・流入増等、出生率向上の両面から四国が一丸となって少子化、人口減少対策に取り組むことといたしました。本年5月には「四国少子化克服戦略」をとりまとめたところです。現在、この戦略に基づきまして、四県、また、官民一体で若者の早期結婚、出産の支援について、

プロジェクト等の取組を進めているところであります。

一方で、少子化、人口減少対策というのは日本全体の課題でございます。各地域の取組に加え、国による強力な政策推進が不可欠であります。東京一極集中是正、あるいは、財源の確保など国に求めるべき施策について本会議体としても強く要望すべきであると考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございます。飯泉知事さん、よろしくお願ひします。

○飯泉徳島県知事

今、村岡知事さんからも言われましたように、この地方創生、まさに、日本創成に向けて、大変重要な中四国サミットからの共同アピールだと考えています。と言いますのも、今年のちょうど今日と言いますか、実は昨年、中四国サミットは徳島で開催させていただきました、ちょうど9月3日だったんですね。9月3日は何の日かというと、第2次安倍改造内閣スタートということで、正に日本の有史以来初となる地方創生担当大臣、石破大臣が誕生されたということでありまして、そうやってきて、一番の目的というのが人口減少問題、これに正面から、そして東京一極集中を是正をするんだと。そうやってきますと、例えば限界集落、一番多いのが四国、二番目に多いのが中国ということで、人口減少問題は、中四国はまさに全国の先駆けとして、ずっと取り組んできた課題。であれば、このテーマについて真っ先にその処方箋を打ち出すのは中四国サミットではなくてどこでやるんだ、しかも、全国のブロック知事会としては、唯一経済界の代表に入っているということ、緊急提案をしようではないかということで10項目を取りまとめたところでありまして、それをすぐに9月10日に石破大臣のところにお持ちしまして、それがその後の全国知事会、あるいは政府のいろいろな総合戦略のベースになったということがありますので、ぜひ今回も、今、村岡知事さんから言われたように、このことを全国の処方箋としてしっかりと国に打ち出す、そして、地方創生、そのモデル、さらには日本創成の礎は中四国からこそ示していくんだと、こうした気概で取り組むべきではないかと思ひます。

そこで、2点少しお話を申し上げたいと思ひます。一つは、7月に岡山で開催された全国知事会議では、伊原木知事さん、大変お世話になりました。そこで私の方から発言をさせていただいたのですが、国が東京一極集中を打破し、企業の本社機能を地方に展開をしようと、促進税制、これが打ち出されました。そこで、多くの企業の皆さん方からは、いきなり地方に移るといふ、これはなかなか大変なんだけれども、お礼したい気持ちはたくさんある、そうしたものを何かやってもらえないだろうかということで、企業版のいわゆるふるさと納税、こうしたものが必要なのではないかと。最終的にはそうした気持ちが今度はいよいよ地方に移っていこうと、引き金になるということがありましたので、発言をさせていただきました。この分については、国の本気度を示すということがいけば、当然、国税であります法人税、それから我々地方の

法人住民税、こうしたものをうまく組み合わせる形で、またモラルハザードという点で、いろいろと個人のふるさと納税では、指摘をされておりますので、そうしたものも噛み合った、我々地方からの提案の企業版ふるさと納税をしっかりと位置づけるべきではないか、このように考えておりますので、ぜひその点についても賛同いただきたいと思っております。

それからもう1点は、大きな問題となっている「日本版CCRC」の問題であります。これについても舛添都知事の方からも、今持っている住宅をどうするのか、そうした点についての対応がいるのではないかと、都市にいる住民の皆さん方の住宅の買い替えについて、今、一定の税制はあるわけでありましたが、もう少し、地方に移り住むときのいろいろな税制をはじめとする支援、こうしたものを、この中に、やはり一言書いておく必要があるのではないかとと思っております。つまり、この文章、ちょうど1の(1)の⑤のところにあるわけでありましたが、一番下、「理解を得る形」の前に、「都市部の高齢者が移住しやすい支援制度の創設も含め」と入れることによって、逆に東京をはじめとする1都3県、こうした皆さん方からも、「あ、やはり中四国の皆さんはよく考えてくれている」と、「自分たちのことを考えてくれている」と、こうした印象を持ってもらえるのではないかとと思っております。

ただ、もう一点はサ高住です。確かにサ高住、これが今年の4月、制度改正になったわけでありましたが、まだどうしてもコンパクトシティ的な都市部中心の考え方となっております。やはり中山間地域に高齢者の皆さんが元気なうちに移り住んできていただくということになると、今、例えば、自分の実家が既にある。でも空き家になっている。空き家対策といった観点でも、こうした空き家を新たなサ高住とできる要件緩和、これもしっかりとこの中にやはり打ち込んでおくべきではないかと、我々まさに中四国からの知恵として出すべきではないかと考えておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思っております。以上です。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。では、平井知事さん。

○平井鳥取県知事

ありがとうございます。本日は、村岡知事はじめ、山口県の皆さんにこのような素晴らしい中四国サミットをオーガナイズしていただきまして、誠にありがとうございました。また、萩焼をはじめ、心づくしのおもてなしまでいただきまして、感謝を申し上げます。本日は、この度就任されました千葉会長様、さらに山下会長様も交えまして中四国サミットが開かれることになりました。ぜひ、実りの多い会議になって、地方創生の戦端を開くということになればと思います。「おもしろきこともなき世をおもしろく、すみなしものは心なりけり」、高杉晋作の辞世の句と伺っております。これは、いろいろと辛いことがある、考えてみれば今もそうかもしれませぬ。地方だ地方だと追いやられて、まあ、それで厳しいところであってもそれをおも

しらく変えていく、それは私たちの決意、心なんだと。そして、息を引き取るときに、高杉晋作は「おもしろかった」と語ったというふうにも伝えられています。今回、そういうわけで、地方創生をなんとか実現をしていかなければいけないわけではございますが、先ほど飯泉知事がおっしゃったように、今日は昨年であれば安部内閣の発足の日だったということでありまして、地方創生の原点の日でありました。あの日に、石破大臣が就任されまして、それから約1週間後にスターバックスが進出を決めました。確かに、あれから歴史が変わったんだと思えるところもございます。それはともかくといたしまして、今日は、確か、女性活躍推進法の公布・施行の日だったと思います。鳥取県としては、それに基づく協議会、「輝く女性活躍加速化とっとり会議」という会議を今日始動することとさせていただいているわけでありまして、今日は経済界の方もいらっしゃいますので、そういう女性の活躍、これを前面に出して、今日の地方創生の中にもそういう趣旨入っていますが、そういう決意を固めるアピールを我々としてもすべきではないかなと考えます。新しい働き方の中で、いい故郷が出来上がっていくのではないかと思います。

それから併せて、これは湯崎知事がかねがね主張されている交付金のこと等、やはり我々、環境づくりも必要だと思います。これからも話があると思います。併せまして、募集が行われていた国の政府機関の地方移転、これも締切がきました。いよいよこれからということになります。我々は政府が本気でやるかどうか、それを見なきゃいけないと思います。これだけ地方が苦労しているんな案を考えている。政府の移転の案だとか、それから、地方創生の戦略を取りまとめている以上は、国の方も伴走型と言っておられまして、きちんとやるべきことも果たしていただきたい。そのメッセージを強く中四国からも出すべきではないかということだと思います。「苦労する身は厭わねど、苦労し甲斐のあるように」。これも高杉晋作で、同一でございますが、やはり我々は苦労するんですが、苦労し甲斐のあるように、制度としては、環境づくりを求めます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。浜田知事さんお願いします。

○浜田香川県知事

はい、ありがとうございます。先程来お話のあるとおり、このアピールの関係、一年経ったということなんですけれども、私は、このアピール文について、基本的に賛成の立場ですけれども、強いて申し上げたときに、平井知事がおっしゃった国との関係、国の方の気概、我々も十分気概を持って臨んできているつもりですけれども、あえて誤解を恐れずに言えば、この1年間、スタートしてきて、ややですが、ここにきて失速しがちになってないかということに懸念を覚えております。新型交付金の規模について、いろいろな評価がありますが、現段階での要求計上額というものは、国立競技場1つ分より少ないというふうに言われていますけれども、やはり地方が単にお

ねだりをしているのではなくて、これは国全体としてやっていかなきゃいけないんだというのが、まさに1年前の国・地方を通じての決意だったはずでありまして、前回の岡山での全国知事会議で、湯崎知事があえておっしゃっていただいて、国の側がなんとなくこの程度でいいんじゃないかと言っているのに釘を刺していただいているわけですがけれども、こういったことでなんとかやってくれよと言われても、そんなものじゃないんだということは、もう一度ここではっきりと、我々中四国圏でも、経済界の方々も含めて、意思表示、アピールした方がいいんじゃないかと思えます。なんとなくこの1年間、最後の方は、地方創生も少し後ろに引っ込んでいって、安保防衛とかそっちの方が国政の大きなテーマとなっている。やむを得ないところもありますけれども、端的に言えば、1箇所だけあえてお願いするとすれば、「地方創生に向けた財源の確保」という最初のアピールの2番のところですが、その第2パラグラフで、「新型交付金について、その規模について一層の拡大を図ること」とありますけれども、当然、一層の拡大を図るべきだと思いますが、もう少し強調して、「思い切った」とか「前年度を大幅に上回る」とか、知事会でも言っていたようなそういう表現をあえて、ある意味では、これまで言ってきたことの繰り返しになるわけですが、なんとなくもうこれで地方側もいいんだと思われても、我々そうじゃないですと、国も一生懸命取り組もうとしていることは、我々も認めるのにやぶさかではありませんけれども、実際のところ、いろんな足枷があるとか、地方機関の移転についても、本当に困っているんだというようなところも現になきにしてもあらずでありまして、改めて喝を入れ直すような、そういった大いに尖がったところをアピールに入れてもいいんじゃないかと思えますので、御考慮いただければ幸いです。

○議長（村岡山口県知事）

尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

ありがとうございます。先ほど浜田知事も言われましたように、新型交付金について、やはり金額的に、もう一段規模感の大きな取組をぜひ行っていただきたいという思いであります。今回、当初予算ベースとして確保されようとしていること自体は、大変高く評価できることだと思います。その中で、金額的に一定の制限が出てくる可能性も理解できなくはありませんが、やはり結果論として、ぜひ、もう一段パワフルな取組が進められていきますことをお願いしていきたい。補正対応等いろんな可能性が考えられるのではないかと思いますので、結果として力強く地方全体の取組を後押しすることになるように、ぜひお願いしていく。我々中四国知事会として、経済界の皆様とともに力強く訴えていくことが大事ではないかと思えます。

それともう1点。千葉会長が言われたことに大いに賛同する立場から、少子化対策の観点で申し上げさせていただきたいと思えます。少子化対策について、全国知事会次世代育成支援対策プロジェクトチームで取りまとめ、そして全国知事会で取りまと

めていただきました提言書について、有村大臣のところに先日お伺いして、4点の政策提言をさせていただきました。1点目に、地域少子化対策強化交付金について、より使い勝手のよい交付金とし、当初予算計上とすること。2点目に、第3子以降の保育料無償化などの大胆な経済的支援策を講ずること。3点目に、子ども・子育て支援新制度に必要な1兆円超の財源の確保を図ること。そして4点目に、子どもの貧困対策について、よりパワーアップして取組を進めるべきであることを訴えてきたわけであり、一定それぞれ概算要求に反映されてきているかと思っておりますけれども、今後特に、予断を許さないことのひとつが、地域少子化対策強化交付金の行方であろうかと考えております。この交付金が2年連続補正予算で措置された結果、47都道府県すべて、そして200を超えるその他の自治体におきまして、少子化対策の新たな取組が進んできたわけでありまして、やはり少子化対策に用途をイヤマークした交付金をしっかり確保しておくことは、結果としてそれぞれの自治体での新しい取組を後押しする大きな力になっていることが窺い知れるのではないかと考えております。そのため、当初予算計上化がしっかりと図られていく必要があると考えておりますので、ぜひ、中四国知事会で力を入れてフォローし続けることが大事だと思います。

そしてもう一つ、用途についてですが、政府のいろいろな少子化対策の中で、結婚対策について、少子化対策担当大臣には御理解いただいておりますが、その他の方に、まだまだ御理解が行き届いていない面があるのではないかという空気感を、霞が関をいろいろ回っている中で感じる場所があります。少子化の原因をしてみると、未婚化、晩婚化の要因が少子化の原因になっているわけでありまして、我々地方において一生懸命結婚支援等の取組をしてきたわけでありまして、例えば「婚活というようなことに政府が関与するのか」と言わんばかりの感じで、なかなかこの点について理解していただけないということがあります。今日は、先ほど来から平井知事が幕末維新に係る詩を詠んでおられますので、私も真似して言わせていただければと。本当に、高知も一生懸命結婚支援をやってきたわけですから。「世の人は我を何とも言わば言え 我為すことは我のみぞ知る」、これは坂本龍馬の句ですけれども、そういう思いで、この少子化対策は大事だという思いで取組を進めてきました。ただ、結婚対策、未婚化・晩婚化対策をしっかりやるというスタンスを政府としてもう一段明確に打ち出していただくことが大事だと思っております。地域少子化対策強化交付金の用途などにも大いにかかってくると思います。

恐縮でございますが、共同アピールについて、事務方ベースでもう少し早めに言っておけばよかったのですが、3枚目の(3)に、「地域の実情に応じた対策の推進」として、「少子化対策～交付金とすること」と①で書いて、②のところに、「若者の結婚、妊娠・出産、子育ての希望が叶うよう」として、この後にすぐ不妊治療の話に入っております。下の2ポツのところ、「結婚や家庭の良さを啓発するポジティブキャンペーン」の話になり、結婚段階については2ポツ目のポジティブキャンペーンあたりから出てくることになっておりますが、実際には地方においては非常に出会いのきっかけ作りなども大事ですので、ぜひ、ポジティブキャンペーンなどの啓発活動の

前の1ポツの具体的な行動をするパーツの中に、「地域の実情に応じた結婚支援」などの文言を入れていただいて、特に中山間等の地方の中の地方においては結婚段階のバックアップも、重要だという点を強調していただければありがたいと思っております。地域少子化対策強化交付金をしっかり確保することと、その用途をいわゆるライフステージの前段階で出来るだけ展開できるようにしていくことが少子化対策としてポイントだと思いますので、ご検討をお願いします。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、上甲副知事さんお願いします。

○上甲愛媛県副知事

愛媛県副知事の上甲でございます。本日は中村知事が所用で出席できませんで、代理で出席させていただいております。発言の機会を与えていただきましてどうもありがとうございます。この共同アピールについては、もちろん、大いに賛同しております。また、先ほど浜田知事が言っておられたような新型交付金は後退している感が否めないなので、強い口調でいいと思います。

その上で、愛媛県としては、政府関係機関の地方移転に大きな関心を持っておりまして、海上技術安全研究所の一部移転を提案しているところですが、やはり、関係省庁の抵抗も相当予想されます。どうすれば実現できるかという視点で、どのくらい国が本気で臨むかというところを非常に注目し、本県としても要望を続けていこうと思っておりますので、こういう共同アピールもしっかりしていただければありがたいと思っております。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

はい、岡山県です。今回の御準備ありがとうございました。また、7月には岡山へお越しいただきまして、ありがとうございました。この共同アピールに全面的に賛成であります。とにかく、一つ一つ挙げていけば、湯崎知事が言われているとおり、もう少し予算があればいいとか、ここにもう少し力を入れてくれればいいという思いは当然あります。それはきちんと言い続けていく。一致団結して言い続けていくというのが大事だと思いますが、ちょっと冷静になって考えてみますと、安倍総理はこちらの山口出身で、地方創生大臣であります石破大臣は鳥取県出身です。中四国から何人も出ている内閣で、ここまで地方のことを一生懸命やってくれる内閣は、初めてとは言いませんが、かなり久しぶりなのかなと思っています。地方を元気にすることで日本を良くするんだと1年前から大々的に頑張っていたとき、私は、底流には、そういう内閣を応援する、感謝をしつつ一緒に頑張ることが大事だと思っています。

す。これもだめ、どれもだめ、ああもう全然不十分だということになって、地方創生を言い出したら、かえってひどい目にあっていると思われるのもったいないというか、申し訳ないという気持ちがあります。地方から日本を変えるんだという思想を持った内閣をぜひ応援しつつ、我々自身、いいお金の使い方をして、皆さんに納得していただけるように頑張っていきたいと思っています。

平井知事に続いて尾崎知事まで詩を詠まれる状況ですが、私、そういう準備をせずに来てしまったので、きれいな終わり方ではありませんが、頑張っていきたいということで、よろしくをお願いします。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。では、山下会長さんをお願いします。

○山下中国経済連合会会長

中経連の山下でございます。中国地方は20年前から少子高齢化になってきて、長年、中経連としましては、この少子高齢化の中でいかに中国地方を活性化していくかということで、様々な調査・研究をして提言してきたところであります。そういう意味からも、今回、こういう中四国サミットの中で共同アピールを出すということに対しては、私ども心強く思っておりますし、もちろん共同アピールに強く賛同するものであります。

その上で、2つのお話をさせていただきます。1点目は、地方創生が国を挙げて行われている中で、県ではきちんとした総合戦略案を作っているんですが、各市町村になりますと、まだまだのところもあります。我々中経連としては、各県、各市町村のいろいろな地方創生の具体策について調査・研究をさせていただいておりますし、もう少しそのあたりを、県としても指導していく必要があるのではないかと考えておりますし、私どももその中身を見て研究した上で提言できるようにやっていきたい。要するに、一緒になって汗をかいて経済界もやっていきたいというふうに思っております。

それからもう一つは新型交付金の創設の件でございますけれども、当連合会は従来から強く地方分権の推進を主張してきたところであります。そういう中で新型交付金が新たに考え出されたところでありますけれども、アピールの中身を見ますと、工夫をしながら柔軟に活用できる継続的な制度にするように求めており、私ども非常に心強く思っております。規模の拡大というのはいろいろな問題があると思います。とりあえず最初は、確実に地方が工夫をしながら柔軟に活用できる制度にする、それが地方分権の橋頭保になると私は思っております。ぜひともこの制度を実現させて、いい結果を出して、それが、先々の地方分権の推進、さらに制度の拡充に繋がっていくというふうに思っております。以上でございます。ありがとうございます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございます。湯崎知事さん。

○湯崎広島県知事

今日は、本当に山口県に大変お世話になりまして、ありがとうございます。先ほどから私の岡山での知事会の発言を皆さん御参照いただきまして大変嬉しく思っておりますが、期待をされるということで、私も一言交付金のことについて申し上げますと、今般の交付金のことについては、2つの側面から申し上げたいと思うのですが、1つは、クリティカルマスということでありまして、これは民間企業であれば御理解いただけると思うのですが、何か投資をして効果を出すというときに、クリティカルマス、つまり、一定の規模の投資をしなければその効果は出てこない。つまり、逆にクリティカルマスに至らない投資をしたものは、かえって無駄になってしまうということがあろうかと思えます。例えば電力で言えば、スマートメーターを導入する場合、全電力の中で、例えば3%スマートメーターにしますといっても全く意味がないわけであり、これを8割とか、できれば100%というところに持っていかないと、スマートメーターとしての機能を果たさないということがあります。そういう観点からいったときに、一体今の1,000億という金額が日本の少子化をストップして、地方のまちを再生し、人づくりをし、そして仕事を地方につくっていくというところに、本当の意味で効果を上げるだけのクリティカルマスに達するような投資なのかということがやはり問われるべきではないかなと思えます。結論としては、私はそうは思えないということでもあります。

もう一つは、今、我々、地方創生の総合戦略を作っておりますが、この総合戦略と交付金の関係を考えて場合に、私は、本当によくよく考えると、地方が馬鹿にされているのではないかという気がしています。最近、すみません、過激な発言をしておりますが、遠慮せずに過激な発言をいたすわけではありますが、それはどういうことかという、我々はこれまでずっと人口減少の問題にせよ、地方に仕事を持ってくる、ないしは、地方に仕事をつくるということにせよ、相当力を入れてやってきたつもりであります。それができていない。そうは言っても、それが実態としては東京一極集中が進んでいるという実態がある。それで、今度国としては、各地方、都道府県も市町村も総合戦略を作りなさい、総合戦略を作るということは、我々がやっていることを組み直すということではありますが、組み直して、各市町村単位で見ますと、数千万程度のお金になるわけですが、組み直した上で数千万のお金をつければ世の中変わるだろう、と言われていたわけですが、つまり、これまで我々がやってきたことは全否定をして、国が総合戦略を作って、国の総合戦略に従って各市町村や都道府県が計画を作り直して、ちょっとお金をつけたら日本は変わるだろうと言っているわけですね。これはやっぱり、私はちょっと「本当ですか」ということが言いたいわけで、それは、地方のこれまでの戦略が悪かったとか、本気で地域を再生することに投資が回っていなかったということであり、我々としても、やはり、そこにきちっと投資が回っていなかったということではないと思うわけでもあります。そういう意味で、この総

合戦略は、おそらく広島県なんかはそうですが、従来やってきたものと大きな流れが変わるわけではなくて、その流れの中で、さらに力を入れてやるというか、付加してやろうというような総合戦略になっている。その力をさらに入れてやるというところに、それなりの応分の投資をすると、クリティカルマス、日本が実際に動いていくだけのクリティカルマスに達するような投資をしなければ、結局、地方創生というのは失敗してしまうのではないかと思うわけでありまして。正直申し上げて、ある閣僚の方とお話をしていたときに、「いや、もうこれまでも何度もやってきたんだ、これは」と、「こんなものは失敗する」というような御発言もありました。所詮、そういう認識なんですかということでありまして。それはもう、今回の地方創生というのは、そういうビジネスアズユージュアルというか、これまでやってきたことを繰り返して、まあ出来るわけないよというような、そんな認識では困るわけでありまして、それをやっぱり我々は相当力強く言っていかなければいけないのではないかなど。そういう意味では、浜田知事が先ほど御提案されたように、ここでの提案の最後、強調して言っていくということは賛成だと思っております。

それからもう一つは、地方移転の話ですが、国の機関の地方移転、これを進めていただいております、実際に移転を実行するかというところを、我々しっかり注視していかなければいけないと思っております。それともう一つは、本当に地方で仕事を作っていくためには、国の機関に加えて、企業が移転をしていくことが本当に重要なことでありまして、本当の意味で地方分散を図ろうと思ったら、やはり、企業が移転していかなければ、それは実態として進まないということがありますので、今般、アピール文の中に企業の地方移転について、特に項目を設けて入れていただいております、数値目標の件も入れていただいているのですが、こういったことで、今、国の総合戦略の中では、地方拠点の強化というような形の目標値になってはいますが、もっと積極的に、東京圏からの移転ということをしかりと打ち出してほしいと思っておりますし、その他、我々が言っていることですが、例えば、地方移転に当たって、本社の不動産を売った場合に、その不動産譲渡の収益を益金に不算入にしようとか、あらゆる手段を講じて、企業の地方移転を実現するというのを政府に訴えていきたいなと思っておるところでございます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。小林副知事さん。

○小林島根県副知事

島根県の副知事の小林でございます。本日は知事の代理で出席させていただきました。よろしくお願ひします。私どもは、このアピール2点についてはもちろん賛成でございますし、加えて、今、何点か修正があったかと思ひますが、その点についても賛成いたします。私ども島根県ですけれども、この間、本当に気概を持って、さらには市町村の方と連携して、県内の民間のいろんな方々の協力を仰いで、様々な工夫を

重ねていろんな対策を打って参りました。加えて、様々な行政改革等を行いながら、限られた財源をやりくりして、この間やってきました。その上で、地方創生ということであれば、さらにパワーアップしたい。そのためには、やはり、新型交付金等々の財源の担保をはっきりしていただきたいですし、また、子育て支援等々、これは国全体の大きな課題です。公共団体レベルだけで整理できるものではないと思っております。したがって、アピール文にありますように、国策としてしっかり制度を作っただけでいただきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。皆様方から、地方創生という重要なテーマに関連して、貴重な御意見をいただきました。交付金の財源の問題や、あるいは少子化対策、政府機関、企業の地方移転を含め、そういった流れをつくっていく、様々な貴重な御意見をいただいたところであります。その中で、アピール文はいくつか修正の御意見をいただきました。まず飯泉知事から、C R C Cの部分について、都市部の住民が移住しやすい環境整備をする、あるいは、サービス付きの高齢者住宅についての御意見をいただいたんですが、これについては反映するという事でよろしゅうございますでしょうか。

（異議なしの声）

ありがとうございます。それから、尾崎知事の方から、結婚、妊娠・出産、子育てのところ、(3) ②の1つ目のポツのところ、「希望が叶うよう」の後に「地域の実情に応じた結婚支援」を入れていくということですが、こちらについても修正してよろしゅうございますか。

（異議なしの声）

ありがとうございます。それから、いろいろ皆様方から御意見がありました、財源の部分のところでもあります。これについて、浜田知事の言葉によりますと、国に対して喝を入れるというところではあろうかと思えますけれども、今、「一層の拡大を図ること」と書いているところ、浜田知事さんから「思い切った」というふうに直すという御提案もありましたが、その部分につきましても、「思い切った」という形で修正するという事でよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

分かりました。そうしましたら、今の3点、事務局で修正をさせていただくということで御異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは、修正したアピールにつきましては、後程お配りさせていただきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

新型交付金のところも、今の「思い切った」のところは同じように修正をさせていただきます。

それでは、続きまして「高速交通ネットワークの整備促進」に移らせていただきます。こちらにつきましても、共同アピールを行わせていただければと思っております。文案はお手元の資料3のとおりでございます。こちらのアピール文案につきましても、まず、私から、趣旨についてお話を申し上げたいと思っております。

高規格幹線道路・地域高規格道路などの道路ネットワークは、産業や観光の振興、安心・安全の確保等を通じて地方創生にも資する重要な社会基盤でありまして、早期にその充実・強化を図る必要があります。

また、こうした高速交通ネットワークは、大規模な地震や、近年頻発しております台風や集中豪雨などの大規模災害時に、救急活動や緊急物資の輸送、あるいは復旧支援等を行います上で、重要な役割を担うものでもあります。

しかしながら、本県で山陰道の約8割が未だ未着手である状況であります。そういったことをはじめといたしまして、中国・四国地域においては、高速道路のミッシングリンクや暫定2車線での供用区間が多数存在しております。企業誘致や観光振興、地場製品の市場拡大などの取組を進める上で大きな障害となっていると思っております。このため、中四国地域における「高速交通ネットワークの整備促進」について、強く国に求めるものでございます。

私からの趣旨説明は以上でございます。それでは、このテーマにつきまして、皆様方から御意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。いかがでしょうか。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、浜田知事さん。

○浜田香川県知事

先ほどは、伊原木知事から政府に対する、非常にあたたかい、一緒になってやっていくべきだという、我々も別に政府に対して、地方も非難ばかりじゃなくて、自分たちがきちっとやっていかなければいけない。その中でしかし、湯崎知事の御指摘のように、ちょっと中途半端な状況ではどうなのかと、やはり言うべきことは言わなければいけないなと思っております。さっきの話題に戻るようで恐縮ですが、本当に交付金の規模は、今のままでいくと、ちょっと裁量的なやり方がきつくなるんじゃないかと、よほど目新しいものじゃないと認めませんよなんていう形になってし

まうと、踊らされているような、率直に言って。そういうことで市長、町長さんたちが、半ばそっぽ向いているようなことになりかねない。国全体として非常に憂うべきことなんじゃないかなと思って申し上げた次第です。そこに直接つながるわけではないんですけども、高速交通に関して、事務的に既にいろいろ調整した後で申し訳ないんですけども、一番最後の最後で「高速鉄道網の整備」のところなんです。中四国地域における新幹線計画は云々ということで、新幹線に言及いただいているわけですが、概算要求上は、整備新幹線以外の関係の要求は、一部、非常に一般的な調査費、環境調査みたいなものが5千万円だけ増額されているようなんですけれども、やはり、中四国、特に我々四国にとっての新幹線の重要性というのは論を俟たないということで、いろいろ苦勞を重ねてきているところでありまして、現時点の表現として、大変恐縮ですけども、例えば一か所、最後のところが「中四国における高速鉄道網について、整備に向けた取組を加速化すること。」と、一般的に受け直した形になっていますけれども、5番の「高速鉄道網の整備」というタイトルはいいと思いますけれども、文章上、「新幹線計画は、基本計画にとどまっております」から始まるわけでありまして、最後に受けるところ「中四国における新幹線計画について、整備に向けた取組を加速化する」。要するに、基本計画にとどまっている中四国の新幹線計画について、整備計画に向けた取組を加速化すると、ぜひこの文意を明確にしていたいただければとお願いする次第でありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（村岡山口県知事）

千葉会長さん。

○千葉四国経済連合会会長

香川県の浜田知事が、新幹線の話に触れましたけれども、私もまったく同感であります。四国では、高速輸送のネットワークとしては、いわゆる「命の道」としての「八の字ネットワーク」、高速道路のミッシングリンクを早期に解消するという問題と、もう一つは新幹線計画、これに重点を当てて取り組みたいと考えている。今回の共同アピール宣言文として、今のような一部文言修正をいただくとありがたいんですが、基本的に中身についてはこのとおりだと思いますが、そういう中で、四国の状況について少し、補足して説明させていただきたいと思います。

実は、四国の新幹線計画は、もともと基本計画としては大阪を拠点として紀淡海峡をトンネルで掘って、徳島を経由して、高松、そして松山へ抜けて、大分、今度は豊予海峡を挟んで、それともう一つが、いわゆる岡山を起点にして、瀬戸大橋経由で、四国を横断して高知へ抜ける。これが基本計画として今までございます。これが、かつて調査費がついて、いろいろ検討はしましたけれども、非常に高コストで、いわゆるB/C、費用対効果もなかなか上がらないというのが出てくるという状況です。そこで我々としましては、もう少し実現性があるレベルということで、もともと新幹線の仕様である瀬戸大橋、新幹線仕様でつくられておりますので、岡山から瀬戸大橋

を經由して四国に入り、あとは高松、徳島、そして松山、もう一つ高知、いわゆる4県を通る。こういう形の新幹線計画を考えておりますが、実はこれがB/Cが、今話題になっております、来年おそらく函館行って、それから次、札幌に抜けていく北海道新幹線、これのB/Cに比べても遜色はない。こういう評価であります。したがって、我々としましては、ぜひ、こういった新しいルートでの新幹線計画を実現したいということで、今、官民挙げて取組をしているところであります。この四国の新幹線というのは単に四国にとどまるということではなくて、中四国地域、さらには西日本全体の広域交流の拡大にも大きく寄与するものだということでございますので、ぜひとも、中四国全体の中での取組というか、認識を深めていただければありがたいというふうに考えているところであります。以上です。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、飯泉知事さん。

○飯泉徳島県知事

今のに関連して、浜田知事さんの御提案に賛成ということで申し上げたいと思います。実は、ここに「リダンダンシーの確立と防災力強化」と書いてあるその理論付け、さらにということなんですが、実は物流の話として、九州の荷物が一体どうなっているのか、これは、従来はこの山口、つまり、関門を通過して、橋とトンネルで、中で中国を通過して近畿、あるいは関東の方に行っていたんですね。でも、もう一つ今、新しいルートが、特にトラックの運転手さんの過重労働、こうした問題から、実は東九州自動車道であるとか、あるいは、四国の高速道路の整備がどんどん進んだということもあるんですが、実は、豊予を通過してフェリーで愛媛に渡り、高速道路で徳島を通過して、今度は淡路島を抜けて行くと、この2つのルートがあって、どちらかと言うと、この四国ルートの方が数が多くなってきているという話が実は言われています。つまり、物流については既にリダンダンシーがこうやって出来上がっているということですね。ただ、新幹線は山陽新幹線しかないということでもありますので、ぜひそうした点について、昨年よりももう少し強く打ち出していくのが必要ではないかと。それから、今、千葉会長がおっしゃったように、とにかく我々としては「四国新幹線」という名をしっかりと国に印象づける必要があるのではないかと、こうした点で、まず縦軸の話についてのまとまりを打ち出しています。ただ、もう一つあるのは、四国の国会議員さんがよく言うんですが、四国新幹線の名を出しただけで、よそのところから白い目で見られるということですね。もっと仲間を増やさないと。そういう意味で、この中四国サミットは非常にありがたいということと、もう一つ我々徳島の役割として、横軸の話がありました。これをどうするかというのがあるわけですが、実は関西広域連合をはじめ、近畿の方は関空に新幹線あるいはリニアを入れようと。関空まで入りましたら、淡路島はそう遠くない。先ほど、瀬戸大橋が新幹線仕様という話があったんですが、実は大鳴門橋も新幹線仕様なんですね。ということで、近畿の方と

はここを結んでいこうと、こうした話もあって、仲間を広げるという意味ではここも重要と、徳島としては、そうした方面で仲間を募っていこうということも進めておりますので、ぜひ、こうした点について、中四国サミットの皆さん方にも御理解と応援をしていただければと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、上甲副知事さん。

○上甲愛媛県副知事

鉄道関連になりますけれども、今、全国の県庁所在地と新幹線の駅へのアクセスというのは、愛媛が最も遠い県ということになっているようでございまして、県民としてはぜひ、一日も早く新幹線をと考えております。鉄道につきましては、中四国の発展はもとより、国土の均衡ある発展、大規模地震発生時の広域交通の代替手段の確保という点からも国策として取り組むべきだと認識しておりまして、本県としても中四国各県や経済団体の皆様とも連携しながら、その意義や効果を説明して機運の盛り上げを図っていきたいと考えているところです。

また、高速道路につきましては、愛媛県には3つのミッシングリンクがあるわけですが、これらの解消は、四国と中国地方、それから、先ほど飯泉知事がおっしゃられた九州・四国・京阪神間での広域的な物流・交流の促進、大規模災害時のカウンターパートによる支援など、極めて重要な課題であると思っております。特に今年3月に、「やまなみ街道」が全線供用となり、日本海側からしまなみ海道までの縦軸がつながったということで、更なる中四国地域全体の連携強化を図るためにも、ミッシングリンクの早急な解消を望んでおりますので、よろしくお願い致します。共同アピールについては、もちろん賛同でございます。

○議長（村岡山口県知事）

尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

この共同アピールについて、先ほど来お話があります、四国の新幹線の問題について、非常に重要なプロジェクトだと考えており、細部について、我々四国もしっかりと検討を重ねていって、全国の皆さんに御理解を得られるような努力を重ねていく必要があると考えております。全国の中で、新幹線が当たり前のインフラになりつつある中において、四国だけないことは、正直、我々にとって大きなハンデと成り得るものであります。ぜひ、四国の50年後、100年後の将来のためにも、ぜひ、四国新幹線を実現できるよう、努力させていただきたいと考えております。

四国新幹線は、中国を通過して四国に入ってくることになるわけであり、ぜひ中国地方の皆様方の御理解を賜りますようお願い申し上げたいと考えております。

そして「高速交通ネットワークの整備促進について」の共同アピール文ですが、書かれているとおりであり、大規模災害に対する対策を考えるときに、高速道路の存在なくして災害対応はなかなか考え難いところがあり、基幹の中の基幹インフラと考えているところでもあります。

地方の声を聞くのが大事な分野かと思いますので、早期のミッシングリンク解消や、さらには交通量に比して圧倒的に小さな容量しかない暫定2車線区間の改良などについて、ぜひ共に力を入れて取り組ませていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、平井知事さん。

○平井鳥取県知事

浜田知事を皮切りにして、四国側からたくさんの意見が出ました。私も浜田知事がおっしゃるような修文案には大賛成でございまして、もう少し前に飯泉知事がおっしゃるように入れてもいい時期ではないかということだと思います。ただ、千葉会長がおっしゃったように、いろいろB/Cのことだとか、いろんなご意見がこれから出てくとも考えられますし、実は中国地方では、山陰新幹線の計画がもともとあります。それから、中国地方の横断新幹線、この計画もございました。四国も同じようなことで、2通りの計画があるかと思えます。私どもでは、今、岡山県と島根県とあと鳥取県で協力をしまして、具体的に考えられる、あまり経費をかけなくても高速化が進むようなことも、今、調査を始めていまして、この秋にその調査結果が2つのルートで出ることになります。1つは伯備線経由のルート、もう一つは因美線・智頭急行経由のルート、この2つのルートを改良する、B/Cのことも考えて、将来的にはもちろんフル規格の新幹線という構想があり、これは市長会などもそういう主張をしていますが、そういうことと併せた具体的、現実的な検討も始めているところでございます。ぜひ、中四国一体となってこうした新幹線計画ないし、高速鉄道網の整備ということを現実のまず議論の俎上に載せることが今大事だと思っています。

この度の北陸新幹線の開通に伴う大変な観光フィーバーや、その前の九州新幹線のフィーバー等を見ていると、やはり、この新幹線関連のことについては、つくられた地域間格差という面がある。やはり、それができているところ、これ国策でつくっているわけでありまして、今、インドネシアだとかトルコだとか、新幹線を売り込もうとする以前の問題でして、国内のそうした高速鉄道網をきちんとつくるべきだ、このことを出していただければと思います。

ですから、修文する際に、新幹線計画以外のところも少し幅広く若干認めるような、ニュアンスは新幹線計画が念頭にあるんですが、例えば、「中四国における新幹線やフリーゲージトレインをはじめ、高速鉄道網整備に向けた具体的な取組を加速化すること」ぐらいで、現在いろいろ具体的に取組をやっていることと、平仄を若干合わせ

ていただけるような修文をお願いし、中四国一体としてのアピールとしてもらえればと思います。

先ほど、山口の梨、大変甘くておいしい梨をいただきました。「新興梨」でございます。実は鳥取県、新種の梨を作りました。今絶賛発売中でございますが「新甘泉」という梨でございます。新しい甘い泉。山陽新幹線、開通して40年経つそうでありますが、40年経ってもできないものですから、とりあえず食べる「新甘泉」を作りました。さすがですね、山口県は。「新興梨」。出発進行でした。

○議長（村岡山口県知事）

小林副知事さん。

○小林島根県副知事

まず、高速道路の関係ですが、先ほどから出ていますが、今年の3月に中国やまなみ街道が全線開通いたしまして、しまなみ海道を通じまして、太平洋それから日本海、南北をつなぐ道ができたわけでございます。

また、7月に松江城が国宝化されまして、その成果もあったのかもしれませんが、四国の方からも、高速道路を通じてたくさんの方がお見えになっています。改めて高速道路の効果というものを実感しているわけでございます。災害対策等も含めてですが、地方創生のためにもミッシングリンクの早期解消が重要と考えております。

ところで、一方、ETC割引の関係なんです、中山間地域等々で、この割引の関係で、人とか物の流通に悪しき影響が出ているというのが実はあります。高速道路の料金については、やはり地域の実情に即したものになっていくことも大切なことだと考えています。

それから、先ほどの新幹線の話。四国の構想をお聞きしました。ぜひ実現できればと考えるわけですが、ただ、アピール文のところの高速鉄道網の後段部分は、先ほど平井知事さんがおっしゃったようにもう少し広い概念を込めたアピール文と私ども承知しております。したがってこの修文については、少し、平井知事がおっしゃったようなことを含めて調整していただければと思っております。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございます。はい、伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

岡山県とすれば、この3番の暫定2車線区間の早期4車線化ということをごきちんと入れていただいて、本当にありがとうございます。我々としても、4車線化すればもっともっと使えると確信を持っております。岡山だけのことではありません。縦の軸は、防災、産業、観光にも非常に大事だと思っております。あと、1番の道路関連予算ということ言えば、本当はもっとやらなければならないのに、それぞれの県の人

はこんなもんだろうと思っっていることもあります。夏に、全国の知事の方々に岡山へお越しいただき、途中移動していただいた時に、国道2号バイパスを通っていただきました。2号バイパスの渋滞は、我々からすると本当に慣れた姿なんですけど、これだけ交通量があるのに、この程度というのは、本当はもっともっとやらないといけないと他県の知事さんから言われて、やはり、ボリュームがあるのに、そういうサービスができていないというのは問題なんだなということを改めて感じた次第であります。本当に道路ネットワークというのは大事だなと思っっています。

あと、実は岡山は、鉄路では恵まれた地域でありまして、ぜひ、そのメリットを活かしていきたいと思っっているんですが、岡山の人たちからすると別の景色が見えている部分もあります。というのが、例えば、岡山県の井原線は、今、非常に苦勞しています。新しい民間出身の社長さんがすごく頑張ったださって、上向きにはなっていますが、なかなか赤字の解消ができないですとか、JR津山線、姫新線、因美線は、乗客がつい10年前と比べても半減に近いようなことになったり、できただけで万歳にならない、その後の維持も大変だなということを痛感しながら頑張っっているということでもあります。ありがとうございます。

○議長（村岡山口県知事）

それでは、湯崎知事さん。時間がだいぶ押してきていまして、手短にお願いできたらと思っいます。

○湯崎広島県知事

はい。一言だけというか余計なことを言いますが、今年の夏に、うちの4歳の息子が砂丘を見に行きたいと言うものですから、鳥取県へ行ってまいりまして、砂丘、大変混雑して、鳥取県は今大ブームですね、それから、すなば珈琲にも行こうと思ったら、とても人がたくさん並んでいて、とても並べないということで諦めて帰って、またトライしたいと思っますが、その際に、私、中国やまなみ街道、尾道松江線を通って、そして山陰自動車道を通り、そして9号線を通って、そして鳥取まで行っただけであります。だいたい広島を出発いたしまして、米子あたりまでと、米子から鳥取までと同じくらいの時間がかかりました。やはり、9号線、下を通るというところで、渋滞が起きるんですね。その渋滞を含めて、かなり時間がかかったところでもあります。そこで翻ってみますと、やはり、私たちは観光客ですから、構わないとは言え、日常の生活、あるいは、安定的な物流ができないということは経済的にやはり非常に大きなハンデであろうというふうに、改めて感じたところでもあります。そういう意味で、特に長いミッシングリンクがあります日本海側とそれから太平洋側、これを解消していくということは、中国四国の経済発展を凶っていく上で非常に重要なのではないかなと思っますし、これはただ単にB/Cということではなくて、実情、これも何度も申し上げていることですが、今、物流というのが車で行われるということは否定し難いところでありまして、つまり、安定的な高速走行ができる道路がないという

ことは、物流に非常に大きな制約を受けるということでもあります。それは最低限保証されるべきことではないかなと思っておりますので、もうB/Cを超えたところで、きちんと整理をしていくということが特に高速道路については必要なのではないかなと思っております。

また、暫定2車線については、高速性、定時性というところも重要であります。さらに最近は暫定2車線区間で事故が多発しているというようなことが言われておりまして、これは、真ん中がコーンで仕切られているだけで、反対車線に出て行ってしまうケースが多いというようなことも言われております。そういうことも含めて、この4車線化というのは、ぜひ進めていかなければならないのではないかなと思っております。

ここで私も一首、砂丘の感想を御披露したいと思ったところですが、私も全く用意していませんので、このままでいきますとなんとなくこの会議がだんだん歌合せのような感じになりますので、ただ、次回は仕込んできます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。よろしいでしょうか。皆様方から、高速交通ネットワークは、中四国地域においてやはり重要であるというお話をいただいたと思います。その中で、修文の御意見のありました、高速鉄道網の整備のところでもあります。最後のところでございますが、四国の地域の皆様方からは、新幹線という表現をとられました。平井知事さんの方から御提案のありました中国の検討状況からいくと、新幹線よりもフリーゲージトレインの方が可能性が高いということでございます。この修文としては、中四国が一つになって要求していくということでもありますので、平井知事さんから修文がありました、「中四国における新幹線やフリーゲージトレインをはじめ、高速鉄道網の整備に向けた具体的な取組を加速化すること」、こういった形でまとめたいと考えていますけれども、いかがでございましょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。それでは、そのような修文をさせていただいた上で、このアピール文とさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、3番目の「国土強靱化の取組について」であります。このテーマにつきましては、高知県から御提案をいただいておりますので、まずは尾崎知事さんから提案趣旨につきまして、御説明をお願いします。

○尾崎高知県知事

それでは、国土強靱化の取組について、お話をさせていただきたいと思っております。大規模な災害に対する対策につきましては、中四国連携の取組として平成24年3月に

カウンターパート制度の協定を締結したところであり、南海トラフ地震で大きな被害が想定される本県としては、大変心強く思っているところであり、これまでの間も中四国での共同訓練や実務者レベルの会議などを行ってきています。今後もぜひ、フェイス・トゥ・フェイスでの連携を積極的に進めるなど、御協力をよろしくお願い申し上げます。

そういう中で、平成26年に国土強靱化基本計画が閣議決定されたことを受けまして、各県それぞれで国土強靱化地域計画の策定が行われているところだと思います。本県も先月、この計画を策定したところであり、今2期目となっている、南海トラフ地震対策行動計画に基づきまして、確実に災害対応を進めているところであり、各県それぞれ取組を進められていると思いますけれども、本県においても取組をしていく中で、県レベルだけでは対応できないことが大いにクリアになってくるわけであり、四国レベルでの連携、中四国レベルでの連携、全国レベルでの連携、場合によっては、外国からの支援も仰がなくてはならないであろう問題もでてきます。

各県それぞれが国土強靱化地域計画を策定していく過程の中で、その点がますますクリアになってくるだろうと思うわけです。今後地域計画の策定がそれぞれ進んでいく中で協力が必要だと思われる事項が具体化してくるでしょうから、その具体化してきた事項について、具体的な形で、中四国で連携させていただければと考える次第でございます。

例えば、救助・救急・消火活動に係る広域的な受援体制をどうするか、関係機関と連携した物資調達・供給体制をどうするか、広域避難者の受入体制をどうするか、応急仮設住宅の建築資材・作業員が不足することを回避するための体制の構築をどうするか等々、地域計画の策定がそれぞれ進むにつれ、具体的なアジェンダの設定が可能になるだろうと思います。既に具体的にいろいろ連携させていただいておりますが、さらなる深化を遂げることが出来ますようぜひ御協力をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（村岡山口県知事）

今の提案につきまして、飯泉知事さんよろしく申し上げます。

○飯泉徳島県知事

今、尾崎知事さんが言われた件については、全面的に賛成であります。そして、私も3月4日、全国でトップを切って地域計画を作らせていただいて、3月16日、仙台で行われた国連防災世界会議でも国の方から発表をしろという打診がありましたのでさせていただきました。

先ほど尾崎知事さんが言われたカウンターパートの深化といった点なんですが、実は、昨年の中四国サミットの中で、千葉会長さんの前任の常盤会長さんの方から実は御提案いただきました。つまり、1次のカウンターパートは全部できているんだが、例えば岡山と香川が同時被災した場合、別のところから助けてもらう必要があるんじ

やないかということで、これ実は、皆さん方に御賛同いただいて、2次的なカウンターパートを作ろうという話がありましたので、ぜひこれからそれぞれが地域計画を作っていくにあたって、まず1次的なカウンターパート、これはもう決まっておりますから、これにさらに、もし、それが同時被災受けてしまった場合には、2次的なカウンターパートをしっかりとその中に書き込むといった点について、深化をするという尾崎知事さんの御提案について、ぜひその部分をよろしくお願ひしたいと思ひます。昨年のフォローといったこととございます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございます。湯崎知事さん。

○湯崎広島県知事

昨年の中四国サミット、私は欠席をしたのですが、それは、8月20日の土砂災害がございまして、その結果、欠席をいたしましたのですが、土砂災害におきましては、各県から様々な御支援をいただきました。警察や消防、ドクターヘリの派遣等々、この場をお借りして、心から御礼申し上げたいと思ひます。

先ほどの尾崎知事の御提案ですけれども、私もそのとおりと感じる次第ですが、具体的に取り組んでいくために、例えば事務レベルの検討会合を進めましようという御趣旨であるとすれば、私もそれについては賛同させていただきたいと思っております。

○議長（村岡山口県知事）

山下会長さん。

○山下中国経済連合会会長

国土強靱化とはちょっと外れる話になるかもしれませんが、御理解をいただきたいために、発言させていただきます。道路の整備促進については、先ほどお話がありました。それ以外に、私どもは港湾施設等の耐震あるいは老朽化対策の計画的な実施を国にお願ひをいたしております。耐用年数が過ぎてまいりますし、ぜひ御理解いただきたいと思ひます。

それからもう一つは、瀬戸内海沿岸は企業がたくさん立地しているわけとございまして、津波などを考えると軟弱な設備になりつつあります。したがって、企業がやる防災減災についても、税制的な優遇措置を要望いたしておりますので、ぜひ皆様方の御理解をいただきたいと思ひます。以上とございます。ありがとうございます。

○議長（村岡山口県知事）

よろしゅうございますか。ありがとうございます。この大規模災害の対策の関係、

大変連携が重要だという認識で皆さんが一致されていると思います。その上で、これから地域計画を策定した後での具体的なレベルでの連携、そしてまた、飯泉知事からお話のあった2次的なカウンターパートも含め、いろいろ実務的なレベルの話し合いもしっかりしていかななくてはいけないと思っておりますので、連携を深めていくという認識を共通化した上で、実務的なレベルでの話し合いをさせていただきたいということに今回させていただきたいと思います。

今のテーマは以上とさせていただきまして、続きまして、意見交換の最後のテーマ、「広域的な観光連携の推進について」であります。このテーマは愛媛県から御提案いただいておりますので、上甲副知事さんから提案趣旨について御説明をお願いします。

○上甲愛媛県副知事

ありがとうございます。先ほどちょっとお話をしましたけれども、本年3月に中国やまなみ街道が全線開通となりまして、日本海から瀬戸内しまなみ海道まで縦軸が繋がったことで、中四国間の移動時間が短縮されたわけでございます。また、26年度から導入されました本四高速の全国共通料金の効果も相まって、地域交流の更なる活発化が見込まれているところです。

こうした中、来年には、本県では「えひめいやしの南予博2016」、香川県では「瀬戸内国際芸術祭2016」、高知県では「奥四万十博」など、各地で大型イベントが予定されています。

そこで、中国四国で行われる大型イベントや地域イベントなどの広域的な連携を図って、圏域内の観光交流を推進するほか、圏域外に対しては、広域的な観光周遊ルートを設定して、情報発信してはどうかと考え、今回の意見交換のテーマとして提案させていただきました。

例えば、各県共同での大規模イベントの情報発信とか、移動手段、時間、距離、経路などの情報発信、また、サイクリングをはじめ、テーマ性のある周遊ルートの連携・協力などが考えられますほか、各県が取り組まれている先行事例やアイデアなどを情報共有させていただくとともに、柔軟にさまざまな連携に努めていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。このテーマにつきまして御意見をいただきたいと思いますが、平井知事さんお願いします。

○平井鳥取県知事

上甲副知事の御意見に大賛成でございます。今やはり、海外から来られたお客さんをどうやって持ってくるかということでございまして、このことを中四国全体で考えるべきであります。中四国だからということで、瀬戸内海がすべてではない。瀬戸内

海は確かに内海でありますから、きれいだなと私も思いますし、大好きなんですけれども、内海であれば、日本海も我々の日本列島とアジア大陸の内海でございまして、ただ、北にある内海なので、「きたないかい」というと語呂が悪いから言わないだけであります。ですから、日本海だって美しい。それから、太平洋も美しいぜよと高知も言うわけでもございまして、もともと3海ルートとして、この3つを繋げた観光ルートを作ろうというのが中四国全体での目標でございました。ぜひ、そういう広域国際観光ルート、そうしたことなどを念頭に置き、あるいは設定された以外のルート設定も皆で検討したらいいのではないかなと思います。御理解いただければと思います。

例えば、山下会長も中経連を引っ張っておられまして、観光を非常に熱心に取り組んでおられます。山陰側での国際観光ルートを設定するというのであれば、DMOにも当然参加していただけたと思いますけれども、様々な官民を超えた連携がなければ進まないわけでありまして、他の地域にこれは負けていますので、ぜひ、頑張ってくださいと思います。

ちなみに、9月から鳥取県はまた、蟹取県に改名をさせていただきました。いつも鳥取でウェルカニと歓迎をしておりますので、お待ちを申し上げます。

○議長（村岡山口県知事）

伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

何か仲間外れにしているような悪い感じがしますが、全然そんなことはありません。実は来年の春、JRのデスティネーションキャンペーンが、岡山県に決まっております。今回の岡山のデスティネーションキャンペーンは、JRの方に言わせると1つの県だけでなく広域周遊に取り組むのは初めてらしいのですが、岡山県だけではなく、岡山県を中心に、広域に来ていただくということで準備を進めています。これは、当然のことでありまして、特に国内でもそうだし、海外にPRするときには岡山だけというのはむしろ損で、中国地方であったり、別の固まりであった方がピンとくるし、引っ張る力が強力ですので、お客様のイメージ、好みに合わせたおもてなしをするということになると、自然と広域になってくるということでもあります。ぜひ、来年春のデスティネーションキャンペーンで、皆様方も一緒にメリットを享受していただきたいと思っておりますし、将来、皆様方がされるキャンペーンでも、ぜひメリットを享受したいと思っています。協力してやっていきたいと思っています。

○議長（村岡山口県知事）

尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

今、平井知事から、内海というのは瀬戸内海だけではなく日本海もそうだというお

話がありました。海というのは、内海だけではありません。太平洋、外海というものもあります。中四国サミットの枠組みとして、経済、地方創生という観点から魅力的なものは太平洋、瀬戸内海、日本海を全部見られる超広域での連携ができることではないかと思うわけであります。

考えてみると、3つの海、それぞれ個性が違います。それを一遍に味わうことのできる周遊ルートを作ることができるとすれば、この枠組みであり、日本の中でも相当メリットのある取組になるのではないかと考えているところであります。

四国周遊ルートと瀬戸内周遊ルートでそれぞれ協力をしながら、それぞれの地域でも協力しながら、併せて周遊ルートは多重構造でいいと思うわけですが。蟹取県に私も行きたいと思いき、大部分の人も行きたいと思いき。そういう形での多重構造的な連携が進んでいきますように、ぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思いきお願ひ申す。

○議長（村岡山口県知事）

飯泉知事さん。

○飯泉徳島県知事

今、それぞれ、中四国での周遊ルート、しかもインバウンド対策というお話がありました。昨年の中四国サミットで、これを想定した上で、徳島から提案させていただいたのが、NEXCO西日本、また、レンタカー会社とそれから9県が組んで企画周遊、つまり高速道路の企画割引、これをやろうということをお話させていただいて、賛同いただきました。その後、実は、今お話のあった広域周遊観光ルートの基であります四国ツーリズム創造機構、あるいは瀬戸内ブランド推進連合から同様の話が実はNEXCO西日本に行っていて、NEXCO西日本の方からなんとか調整してくれと言われていたところなんです。今のお話でいくと、やはり9県全体で使うことのできるインバウンド対策としてやるべきではないかと思いきしますので、ぜひ今年度中には、準備が一番進んでいるのがこの9県の枠組みということで、できれば今年度中にいよいよスタートしようかと考えてお願ひ申すので、ぜひ皆様方にも御協力いただいで、まずは実証実験的に先行してやるという形で進めたいと思いき申すので、ぜひよろしくお願ひ申す。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。他によろしゅうございますでしょうか。皆様方から様々な御意見をいただきました。最後のNEXCOの関係のお話は、ぜひ前に進むように、取組が進むことを期待したいと思いき申すし、また、いろいろお話がありましたように、単県じゃなくて、中四国全体で、観光の情報共有、情報発信、様々なことが考えられると思いき申す。やはり、各ブロックで、私どもも頑張っている中で、中四国でまとまっていけることはしっかりやっていく必要があると思いき申すので、そういった点、

また事務レベルで、どういったことができるかしっかり検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、そういった形で、今後しっかり事務レベルで検討させていただきたいというふうにしなして、以上4つのテーマ、すべて終わりにして、本日予定しておりました意見交換項目はこれですべて終了させていただきなました。

アピール文は、修正したものを今コピーしておりにして、もうちょっとお待ちいただきなして、先に進めさせていただきなします。報告事項がございなしますので、事務局から報告事項につきなしてよろしくお願ひしなします。

○司会（上野山口県総合企画部長）

それでは、報告事項について御説明を申し上げなします。お手元に資料の4とありますけれども、「共同イベント 中四国文化の集いについて」の資料をお配りしていなします。中四国9県では、持ち回りで、平成4年度から文化交流を実施しておりにして、昨年度は、11月に島根県で開催されなました。裏面にまいりなして、本年におきなしては、11月に香川県で開催の予定となつていなします。それぞれの内容につきなしては、資料のとおりでございなします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございます。この点につきなして、皆様方から御質問など、ございなしますでしょうか。よろしいでしょうか。では、報告事項は以上とさせていただきます。

最後に、次回の開催について、お諮りをさせていただきなしたいと思ひます。これまでの順番でまいりなしますと、次は愛媛県さんとなるわけでありなしますけれども、上甲副知事さん、いかがでございなしますでしょうか。

○上甲愛媛県副知事

喜んで受けさせていただきます。

○議長（村岡山口県知事）

皆様方もよろしゅうございなしますでしょうか。

（拍手及び「異議なし」の声）

○議長（村岡山口県知事）

それでは、皆様、御賛同をいただきましたので、次回の開催県は愛媛県とさせていただきます。

それでは、ここで、上甲副知事さんから一言お願ひしたいと思ひます。

○上甲愛媛県副知事

一言御挨拶をさせていただきます。今年度のサミットの開催にあたりましては、村岡知事をはじめ、山口県の皆様方には、本当に大変お世話になり、ありがとうございました。

次回、平成28年度、愛媛県で開催いただけるということですので、謹んでお受けいたします。今年度同様、実り多い会議となりますよう努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

お手元にパンフレットをお配りしておりますが、本県では28年3月から11月にかけて、「えひめいやしの南予博2016」を開催することといたしております。来年度のサミットは、ちょうどイベントの期間中ではないかと思っておりますので、ぜひとも、多くの方に南予地域にもお越しいただきまして、「さとに憩い、ひとに和む。えひめ南予の、いやし旅。」を体感していただきたく存じます。

皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げまして、御挨拶といたします。どうぞ、よろしく願いいたします。

(拍手)

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。ぜひ、また来年よろしく願いしたいと思っております。

コピーが間に合わないので、口頭で今、説明させていただきたいと思っております。資料1でございますけれども、まず、1(1)⑤の「日本版CCRC」のところでございますけれども、こちらの資料を御覧いただきたいと思っておりますが、下から2行目の「財政調整交付金の配分見直し」の後に「ポツ」を付けまして、「サービス付き高齢者向け住宅の地域の特性に応じた要件の緩和など」ということで、これを加えます。そして、最後のところ、「意見・提案を十分に踏まえ」の後、「都市部の高齢者が移住しやすい環境づくりも含め、」というのを加えるということにさせていただきたいと思っております。

それから、これは先ほども確認をしましたが、「結婚、妊娠・出産、子育て支援」のところ、(3)②のところでございますけれども、不妊治療の前に、「地域の実情に応じた総合的な結婚支援の充実」ということを入れさせていただきまします。

それから最後の点、交付金のところでございますけれども、「2 地方創生に向けた財源の確保」の2ポツ目のところ、「その規模について、一層の」というのを「思い切った」というふうにさせていただきます。これは、もう1つのアピール「新型交付金の創設等について」のアピール方も同じように修正をさせていただきたいと思っております。以上の修正をさせていただくということによろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」の声)

○議長（村岡山口県知事）

ありがとうございました。

新幹線の方は、「高速鉄道網の整備」についてのところ、最後のところですね、「中四国における新幹線やフリーゲージトレインをはじめ、高速鉄道網の整備に向けた具体的な取組を加速化すること」とさせていただきたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。今お配りしておりますので、御確認いただければと思います。今の修正を反映しているところでございます。ありがとうございます。

それでは、以上で、私の役目をすべて終了させていただきました。ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の中四国サミットの会議を終了とさせていただきます。本日は、会議の円滑な進行に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、この後、15時15分から、会場を隣の「孔雀」に変えまして、共同記者会見に移りますので、どうぞよろしく願いいたします。

第25回中四国サミット共同記者会見議事録

日 時：平成27年9月4日（金） 15：15～15：29

場 所：山口グランドホテル 「孔雀」

○司会（上野山口県総合企画部長）

それでは、ただ今から、共同記者会見を始めさせていただきます。本日採択されました共同アピールはお手元にお配りしておりますとおりでございます。最初は、この内容につきまして、今回のサミットの議長であります村岡知事から説明をお願いいたします。

○村岡山口県知事

本日、いろんな意見交換をいたしました。共同アピールとしてまとめております。1つは「地方創生から日本創成に向けた取組」ということでもあります。今、地方創生の取組、各地方でもそれぞれの総合戦略を作るという作業をしているところでありますけれども、国の取組をもっともっと強く打ち出していきたいというところ、これは我々共通の、懸念もありまして、しっかりこのタイミングで強くアピールをしていこうということでございます。

1つは、特に中四国地域、課題先進地域ということで、本当に少子高齢化、人口流出、多くの課題がこの中四国には大変立ちふさがっているわけでありまして。この地域で、ぜひ地方創生を成功させるということが大変重要なことだというふうに思いますので、そういった思いも込めまして、一緒になってアピールしていきたいということでもあります。内容はお配りしておりますとおりでありますけれども、地方への新しいひとの流れをつくっていくということ、そしてまた、安定した雇用を創出していく、そして、特に若い世代の結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえるといった点、それからまちづくりですね、様々な点で取り組んでいく必要がある。そしてまた、特に、地方創生に向けまして財源の確保という点が重要だったと思います。概算要求も行われましてこれから予算編成が進んでいくわけでありましてけれども、地方創生を本格的に進めていく上では、思い切った拡大が必要である。そしてまた、自由度を高いものにしていく必要がある。このあたりは特に地方創生を進めていく上で財源が大変重要でございます。これについては、各県でも国の情報について懸念する声もございました。そういったことも踏まえて国に対してしっかりと訴えていくということで財源の思い切った拡大等も、アピール文を修正をし、しっかり今回訴えていこうということでございます。

それとは別に「新型交付金の創設」については、別にもアピール文を作りましたので、そういった意味も込めまして、交付金、財源については、特に力を入れてアピールしていこうということでございます。

それから、2点目は「高速交通ネットワークの整備促進」ということでもあります。

これも、中四国地域、ミッシングリンクの問題、暫定2車線の問題、様々、都市の高速交通ネットワークの形成が不十分であると思います。地方創生を進めていく上でもやはりこのあたりの充実が必要でございますし、また、安心安全の確保という意味でも大変重要な点であろうと思いますので、この点も国に対してしっかりとアピール、中四国のまとまった思いとして、しっかりと伝えていきたいということでございます。

こういったアピールをまとめましたのと、それから、災害対応の連携、観光の取組、こういった点、特に広域での連携をしっかりと取り組んでいこうと、そういったことを確認をして、これからまた具体的な検討をしていきたいと思っているところでございます。私からは以上です。

○司会（上野山口県総合企画部長）

それでは、ここから質問のお受けをいたしたいと思います。質問に際しましては、社名と名前、それから発言をしていただきたい方を御指名の上、質問お願いいたします。

○中国新聞

中国新聞記者の村田と言います。最初に村岡知事にお尋ねしますが、今日、アピールにもありましたけれども、来年度予算の確保について、内閣府の概算要求では1,080億円という額になっていますけれど、そういった点も踏まえて、中四国サミットとしては、この評価について、どういうふうを受け止めていらっしゃるのかについてお伺いしたいのと、あと具体的な意見交換にあまり上がらなかったと思うんですけども、新型交付金に対する地方の負担額について、地方の新型交付金の執行に伴う地方負担についての財政支援についても今回アピール文の中にも入っていると思うんですけども、それを盛り込んだ狙いについて教えてください。

○村岡山口県知事

この新型交付金についてであります。これは今日も御覧いただいたように各県からいろんな意見が出てまいりました。前回の、昨年度措置された交付金については、補正予算であったわけですが、今回は当初予算で計上するというところであります。国の予算編成のルールからいきますと、当初予算に新しいものを盛り込むということは、大変なことですので、これが盛り込まれること自体は、これは大きな前進だと思いますし、それは今日の御意見でもありましたとおり、いろんな思いは各県もあるところであります。地方創生をしっかりとしたものにしていくためには、相当な、規模の思い切ったものにしていただきたいということで、各県がこれから地方創生の戦略を作っていく中で、やっぱりその取組をする上で、どうしても財源というのは大変重要なものとして出てまいります。ですので、当初予算もそうですが、今後の5年間も見据えまして、しっかりと国の姿勢を強く打ち出してほしい。財源の面も大変強力な投資をしてほしいと、そういった思い

をしっかりと伝えていこうということで、今回、強調していこうということであります。そういったところで修正もしながら、アピールも日程を確保してこれから持っていくかもしれませんが、その点は伝えていきたいと思えます。それから地方負担の点でありますけれども、これは今回の交付金の仕組み上、地方負担が想定されているところでございます。これにつきましても、裏負担分についてしっかりと財政措置をしていただく必要があると思えますので、その点についてもしっかりと訴えていって、表の交付金、そして裏の地方の財政負担についての措置、ここを、しっかり両方ともマネジメントしてもらいたいと思っておりますので、そういったところをしっかりと記載をして訴えていきたいと思えます。

○中国新聞

細かい点ですが、地方財政措置は交付金での措置という趣旨でよろしいでしょうか。交付金じゃないですね、交付税交付金の方で、地方交付税の措置ということでよろしいでしょうか。

○村岡山口県知事

通常考えると、補助金の裏というのは交付税の措置ということになりますので、そういったところで、しっかりと経常予算に算定されるということを求めていくということでもあります。

○日本農業新聞

日本農業新聞の橋本と申します。村岡知事に伺いたいんですけど、あまり話に出てこなかったんですが、農林水産業につきまして伺います。地方の重要な産業という位置付けで書いてありますけど、JAグループの自己改革ということで、地方創生に貢献しようといういろいろ取り組んでいると思うんですけども、知事からしてどのような改革、こういった取組を望まれるか、聞かせてください。

○村岡山口県知事

各地域それぞれあると思えますけれども、山口県の方でもJAですね、しっかり強化していこうということで、中でも改革の案をまとめてそれに取り組もうとされているところでもありますので、それをしっかりと後押しをして、我々としても施策的に連携できる部分はしっかりしていきたいと思えます。地方創生の中でも、やっぱり農林水産業というのは重要でして、山口県について言いますと、農業者の高齢化というのが全国2番目に高くなっておりまして、その減少率も全国で非常に高いということでもありますので、担い手の確保をしっかりとしないといけないということで、山口県のことについて言うと、今年度の予算で、農林水産業全ての担い手の確保をするための所得の保障とか、住まいの確保とか、技術をしっかりと身に付ける。その3点を全国トップクラスを目指そうということで「日本一の担い手支援」ということを打ち出して

ます。各県それぞれ、農林水産業、どの地域も重要な課題だと思っておりますが、しっかりと農協とも連携をし、そしてまた各県でそれぞれその特性に応じた取組をする、そういったことが重要であろうと思っておりますし、今回のアピール文の中でも、特にその成長産業化を目指しまして、6次産業化や農商工連携、これもそれぞれ取組があります。山口県でも連携の取組を進めておりますけれども、各県がしっかりと取組をする、そしてまた国の方で後押しをしっかりとしていただくということが重要になると思っておりますので、それを求める内容をアピール文としております。

○日本農業新聞

1つだけ、輸出拡大などというふうにありますけれども、各県での取組に加えて、中四国の枠組みで、現時点で一緒にやれるというか、何か連携したいと思っているものがありますでしょうか。

○村岡山口県知事

各県それぞれ思いがあると思っておりますが、1つはいろいろな取組を、海外に対してしていく、連携というのは、これは中国でも、四国でもそれぞれあると思っております。観光が中心でやっているところでもありますけれども、そういう中で、やはり地域の魅力として、1つは農林水産物、加工品も含めてですけれども、あると思っておりますので、そういう海外にアピールするときに、なかなか単体ではできないところがありますから、連携してやっていく中で、農林水産物も含めてしっかりアピールするということが効果的じゃないかと思っておりますので、そういった方法も、これからまた具体的に考え、実現していくということを重ねていくことが必要かなと思っております。

○共同通信

共同通信の本田と言います。徳島の飯泉知事にお伺いしたいんですけど、意見交換の中で、ふるさと納税の企業版の創設について触れられたと思うんですけども、今後想定される国からの意見など、提案というのを教えていただければありがたいんですけども。

○飯泉徳島県知事

はい。これ元々、個人のふるさと納税、知事会から提案をさせていただいて、これが実現したと。ただ、最初に提案をしたときには東京都、神奈川県、愛知県、大阪府といったところから反対意見が出たんですね。つまり、そうした大都市部の税金を地方に持っていくのかという話がありましたので、我々、当時、たぶん平井知事さんも一緒だったと思うんですが、その時には、国にもひと肌脱いでいただこうと、所得税を入れたとあって、これだったら、当時の東京都の石原知事さんも、それなら分かったということで出来たんですね。ですから、今回のこの企業版のふるさと納税についても「国にしっかりと」と言ったのはそうした意味がありまして、やはり、財務省の

皆さん方の気持ちといったものも考えると、しっかりとこれは法人税といったものも入れ込んでもらう必要があるんじゃないか。今も寄附として、例えば、損金算入というのがあるんですけどね、これを税額控除という形で正面から打ち出してもらう。もちろん我々の場合には地方の住民税、法人住民税があるわけでなんですけども、こうした点についてしっかりとタイムリーに考えていっていただく必要があるということで、これは国にはかつてから提案をさせていただいていまして、ようやく今回、概算要求、税制要求の中で、この地方創生を応援する税制という形で入れられているところではあるんですが、果たして最後まで、例えば財務省の方が納得をしてくれるのかどうか、これは全くの未知数になっていますので、しっかりと地方の中だけでお金を動かすということではなくて、国もしっかり応援するんだと。先程交付金の話も出たように、やはり国が本気でもって、地方と言いますか、こうしたものを応援をしていくんだと、今回の地方創生を応援する支えとなる、こうした点が非常に重要となってきますので、こうした点、引き続きしっかりと訴えかけていきたいと思えます。

○共同通信

追加で、いきなり本社が地方へ移るのは大変だという話を聞いた中で、きっかけになればということがあると思うんですが、具体的な想定される動きというのを教えていただければと思うんですが。

○飯泉徳島県知事

はい。これは具体的には企業からのお話なんですけどね。やはり、いきなり本社を動かすというのはかつてから大変だと、今回はそれを後押しする移転の税制が、促進税制が出来上がったんですね、平成27年度からということで。しかし、これもなかなか準備が大変だということで、まずは応援したいところをしっかりと応援をする、その意味でのいわゆる企業版のふるさと納税、こうしたものがあつたらいいなど。そして、顔の見える関係が出来ることによって、じゃあ従業員の皆さん方も、あるいは、商売先、取引先の皆さん方もということで、じゃあもう本社ごとその地方に移ろうではないかと、こうした顔の見える関係をつくるためには、やはり、一定の関係を突き固めていく、これが一番のポイントということで、どちらかという、個人版のふるさと納税、我々が提唱した後に、すぐ企業の皆さん方が、じゃあ企業だって法人というじゃないか、だから企業版のふるさと納税だっていいじゃないかと、こうしたところが実はいろんなところから聞こえた。それを政策提言として行ってきたということになります。

○司会（上野山口県総合企画部長）

よろしいでしょうか。それではもう時間となりましたので、これをもちまして共同記者会見を終了させていただきます。皆さん、どうも御苦勞様でございました。

